

（あて先）

埼玉県知事

提出者 住所 ○○市△△1-2-3
（施設設置者） 名称 社会福祉法人○○会
代表者職氏名 理事長 山田 太郎

県民あんしん共同太陽光発電事業計画書

令和3年度において県民あんしん共同太陽光発電事業を行いたいので、次のとおり関係書類を添えて提出します。

関係書類

- （1）定款又はこれに類する規約等
- （2）補助事業実施予定箇所の位置図
- （3）補助事業実施予定箇所の現況写真（補助事業実施予定箇所が確認できるように、2方向から撮影したもの）
- （4）補助対象設備の仕様書
- （5）補助事業に要する費用の内訳が記載された見積書の写し

担当者連絡先

郵便番号 : 〒123-4567
住所 : ○○市△△1-2-3
氏名（フリガナ） : 山田 花子（ヤマダ ハナコ）
所属部署名 : ○○本部 事務局
電子メールアドレス : ~~~.~~~@~~~.co.jp
電話番号 : 000-000-0000
ファックス番号 : 000-000-0000

1 補助事業の概要

補助事業の名称		おひさま保育園県民あんしん共同太陽光発電事業	
補助事業の目的及び内容		太陽光発電設備及び蓄電池をおひさま保育園に設置し、発電される電力を施設において使用することで施設運営に伴う温室効果ガスの排出削減を図る。また、災害時には、地域の住民が携帯電話を充電できるように電源を開放するなど、災害時の非常用電源として活用する。	
補助事業を実施する施設	施設の名称	おひさま保育園	
	所在地	□□市〇〇9-8-7	
	施設の用途	保育園	
	施設設置者	社会福祉法人〇〇会 理事長 山田 太郎	
	施設責任者の職氏名	園長 〇〇 〇〇	
補助事業を実施する施設の所有者	氏名又は名称	社会福祉法人〇〇会	
	代表者の職氏名	理事長 山田 太郎	
	住所	〇〇市△△1-2-3	
設置する太陽光発電設備の概要		<ul style="list-style-type: none"> 太陽電池モジュールの公称最大出力の合計値 <u>6.00</u> kW (小数点第3位切り捨て) メーカー名 ◇◇◇◇株式会社 型式 AB-250S 	
設置する蓄電システムの概要		<ul style="list-style-type: none"> 蓄電容量: <u>10.0</u> kWh 定格出力: <u>3.0</u> kW メーカー名 △△△株式会社 型式 CD-EF1000 	
着工及び竣工予定年月日		着工予定日: 令和 3年 8月 5日 竣工予定日: 令和 3年 9月 13日	
交付を受けようとする太陽光発電設備及び蓄電システムに係る補助金額及び算出基礎		① 補助対象経費	3,850,000 円
		② 国等の補助制度による補助金	0 円
		③ 寄付金	50,000 円
		④ ①-②-③	3,800,000 円
		⑤ ④×1/2 (1,000円未満切捨て)	1,900,000 円
		⑥ 補助金交付申請予定額	1,200,000 円
併用する国等の補助制度の名称、実施団体名及び補助金の見込額 (補助金の算定根拠を示すこと。)		名称	
		実施団体	
		補助金の見込額	
		補助金の算定根拠	

2 太陽光発電設備及び蓄電システムに係る補助事業の収支予算

	科 目	金 額	内 訳
収入	国等の補助制度による補助金	0 円	保護者、地元自治会からの寄付
	寄付金	50,000 円	
	自己負担金	2,600,000 円	
	補助金交付予定額	1,200,000 円	
	合計	3,850,000 円	
支出	機械装置等購入費	3,050,000 円	太陽光1,440,000円、蓄電池1,610,000円
	工事費	800,000 円	設置費600,000円、外部電源工事200,000円
	その他	0 円	
	合計	3,850,000 円	

※1 収入及び支出の合計は一致していること。

※2 機器装置等購入費：（補助事業の実施に必要な機械装置等の購入、製造、据付等に
必要な経費（土地の取得及び賃借料を除く。）

工事費：本工事費および付帯工事費（補助事業の実施に必要不可欠な配管、配電等
の工事に要する経費を含む）

その他：知事が必要と認める費用

3 地域住民への電源利用について

平常時の役割	ホームページ、広報誌等による広報の内容	H Pに太陽光発電及び蓄電池を設置した趣旨（平時はCO2削減に努め、災害時は地域住民へ電源を開放する）を掲載する。また、園のお知らせを通じて、保護者や地域住民に周知を図る。
	実地訓練、使用説明会等の内容、頻度	年1回開催している保育園と地元自治会の交流イベントにおいて、設置した施設の見学会を実施する。その際、災害時に利用可能な電源の場所及び使用方法を説明する。
災害時の役割	災害時における施設の果たす役割、機能、地域住民への電源の提供方法	災害で停電が発生した際に、地域住民が利用できる災害用電源として活用することで地域の災害対応力の強化に貢献する。 また、避難所での対応が難しい妊産婦、乳幼児などのために施設の一画を開放し、必要な電気製品を利用できるようにする。例えば、粉ミルクを作るためにお湯を沸かす電気ポット、哺乳瓶を消毒する紫外線殺菌保管庫などを使えるようにし、近隣に設置された大規模な避難所との差別化を図る。

災害時の役割	地域住民への電源利用として想定する電力量（見込）	①停電時に使用可能な電力量（見込） <u>3.0 kWh</u>
	地域住民への電源の提供を予定している場所 ※必要に応じて実施場所がわかる地図を添付すること	②地域住民への電源利用として想定する電力量（見込） <u>2.0 kWh</u> ③割合（②÷①）×100 <u>66.7%</u> ①屋外コンセントボックス ②一時保育ルームの一面 ※別添「配置図」「平面図」参照

4 環境教育活動

公益的施設について	施設の建築時期	19××年建築、20××年改築
	定員等(施設規模)	100人
	施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・おひさま保育園は〇〇年（19××年）創立の認可保育園。園児数は〇〇〇人 ・敷地面積は約0000㎡。教室数6のほか、大・小2つのホールを有している。園庭は約0000㎡で運動場やプールがある。 ・太陽光発電設備の設置場所の周囲には、太陽光を遮る建築物や立木等はない。
環境教育活動について	活動場所	施設内
	頻度・規模	年1回 対象：園児、家族、地域住民 約000人
	内容	園のイベントに合わせて、太陽光を使用した教育玩具や絵本を使って環境教育を実施する。